

あとがき

第十七回日蓮宗教化学研究発表大会は、平成二十八年十月二十七日、日蓮宗宗務院で開催されました。本冊子は、当日の発表内容を収録したものです。

本年度は、特にテーマを設定せずに発表者の募集を行いました。この為、様々な分野からのご発表を頂き、多種多彩なものとなっております。

今般総務省より出された、平成二十八年二月二十六日付の平成二十七年国勢調査人口速報集計結果の要約によれば、日本の人口は、一億二千七百一十一万人となり、平成二十二年から九十四万七千人減少とあり、大正九年の調査以来、初めての減少と報告されています。人口減少社会は檀家数減少に直結し、寺院運営に大きな影響が出るのは明白です。

最後に、この問題に関して、本宗教師でもあり、静岡大学で農村地域研究を専門とされ、過疎地域で生じている問題について調査・研究に取り組まれている中條暁仁師に「過疎地域における寺檀関係の持続可能性―他出子の動向に注目して―」と題した特別発表をして頂きました。師は、浄土真宗本願寺派総合研究所が主宰している「寺院調査会議」に参画し、その調査成果の報告となりますが、本宗の過疎地域における問題を考える為の一助と成り得ると考えます。是非ご一読下さい。